

○ 8 番（山田貴弘）

はい、こんにちは。8番議員、山田貴弘です。さきに通告いたしました、2項目の質問の日曜議会用といたしまして、町民一人一人が、生涯、健康であるためについて、質問を行っていきたいと思います。

国における社会保障と税の一体改革は、消費税増税を基本に考えている。

社会保障とは何か、安心な暮らし、生きがいを持てる快適な毎日の生活、人の生涯とは何か考えさせられてしまう。

高齢者人口の増加に伴う医療費増による保険給付費の増加、介護給付費の増加など社会保障に係る経費の伸びは、予測不能な状態であるのが現状であります。

家庭内はもちろんのこと、地域間・町内で健康管理・健康増進に取り組む環境づくりに焦点をしぼり、健やかで心豊かに自立した生活を営むための環境整備が重要であり、その結果として、医療費の削減につながるのではないかと考えているところであります。

ただいま述べた内容を踏まえた上で、次に挙げる四つの質問について、伺っていききたいと思います。

①高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第5期）基本方針2.「生きがいづくりと社会参加」のねらいと具体的な施策について。

②高齢者に適したスポーツの推進に掲げているパークゴルフは、高齢者の健康増進に寄与していると考えます。例えば、年間利用回数の上位者を表彰してみてもはどうでしょうか。

③パークゴルフはウオーキング型スポーツ、ゲートボールはコミュニケーション型スポーツだと考える。身体状況に適したスポーツを推進するためには、より一層の施設の充実が必要ではないかと、町全体を見る限りで感じているところあります。

④健康管理の特典に、有料施設利用料の無料パスなど発行をしてみてもどうでしょうか。

以上について、回答のほど、よろしくお願いします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

それでは、山田議員のご質問に答えていききたいと思います。一つ目ですけれども、高齢者の豊かな知識と経験などを地域社会の活動に生かし、生きがいを持って、地域で生活することで、健康観や生活の満足度が高くなり、精神面でうつ病的傾向や、認知症が少なくなるということが報告をされております。

開成町では、地域社会との交流をできるだけ維持するように、老人クラブやシルバー人材センターの活性化を進め、仕事、近所づき合い、趣味や娯楽の活動、ボランティア活動や社会との交流が増すように、高齢者の社会参加を進めております。

ひきこもり予防と認知症、うつ予防を目的に、保健センターでは、介護予防を通年で実施したり、町のいきいき健康体操をできるだけ多くの方に、気軽に参加してもらえるように、身近な自治会館等で普及活動を展開しております。

その一つとして、上延沢地区では、健康体操指導員が中心になって、いきいき体操健康広場を月2回、定例で実施をしております。体操指導員がみずから回覧を作成し、参加者の口コミで輪が広がり、健康体操や筋力運動、口の体操や頭の体操なども実施をしております。平成23年度の実績としては、年間23回、延べ495人の方が参加をしております。また、ほかの10地区でも、地域の自治会館などで、健康体操の普及活動を実施しています。町全体では149回、延べ2,191人の方が参加をしております。

次にパークゴルフ年間利用上位者を表彰したらどうかという提案でございますが、開成町では、3世代の交流を深めることができるニュースポーツとして平成6年、関東で初めてパークゴルフ場を設置いたしました。今では神奈川内の公認コースだけでも5カ所、90ホールが整備され、首都圏に範囲を広げると、公認コース29カ所、738ホールが整備をされております。

パークゴルフの愛好者は、開成町のパークゴルフ場だけでなく、お仲間と一緒に、さらに遠方のパークゴルフ場にも出かけるということも多いようで、パークゴルフが健康づくりだけでなく、友達がふえ、生きがいになっているという話も聞いております。

さて、水辺パークゴルフ場の利用状況は、バラ園コースが本格稼働をし、5月、料金を改定いたしましたが、月間利用者数は7,475人、開園日1日当たりの平均では、277人でしたが、これは最大利用可能人数の81.5%に相当します。上手な方のみが利用するわけではないことや、1日のうちでも、昼食時などに利用しにくい時間帯があることを勘案すれば、ほぼ上限に近い利用率と考えて差し支えないと考えております。

また、利用申し込みは、代表者及びほか何名という形で受け付けていますので、代表の方のお名前はわかりますが、そのほかとの利用の実績を積み上げることは、現在のシステムではできません。

しかし、具体的なデータはありませんが、今でも毎日のように利用されている方は決して少なくないということです。今後も高齢者に限らず、多くの方にパークゴルフに親しんでいただきたいと思いますと考えておりますが、ご提案がありました、利用回数上位者の表彰制度を創設することは難しいと考えております。

次に3問目、身体状況にあわせてスポーツを選択できるようにということですが、パークゴルフに関しては、4月にバラ園コースを本格稼働させ、ホール数でいえば、従前より50%増となる整備を行っております。料金設定を9ホール単位とし、体調や時間の都合により選択できるようにしたところです。

平成24年6月現在において、老人クラブを通して把握した結果、開成町でゲートボールを楽しんでいる方は約80名にのぼります。ゲートボールコートは、自治

会館の敷地や公園の敷地等に7カ所あり、自治会及び老人クラブにより管理がされております。

10の地区の老人クラブのうち、五つの老人クラブについては、愛好者が少なく、4人1組のチームが組めなかったり、試合形式の練習ができなかったりする状況にあります。

また、郡内や系内においても同様に愛好者が減っております。以前、愛好者が多い時代には、老人クラブごとにゲートボール場がありましたが、現状では、自治会館や公園のスペースの中にゲートボールをすることができる広さを確保している状況であり、人数の少なさをカバーするために、合同で利用している状況もあります。実際の愛好者数について、老人クラブを通して把握したその状況を考慮しながら、現在実施しているゲートボール大会や、地域及び世代間の交流イベントについて、現状を維持しながら、高齢者の楽しめるゲートボールの振興を支援していきたいと考えております。

愛好者の中には、ゲートボールなら近くでできるし、歩くこともできれば、自分のペースで体を動かすことができるという方もいらっしゃるようです。ゲートボールはチームとして協議を行うスポーツであり、頭を使いながら、体を動かす運動につながり、健康や生きがいのために効果的と考えております。また、健康増進の取り組みとして、無理なく、気楽にできるウオーキングを推進しております。現在、町のウオーキングコースは4コースあります。南部開発路など、通学路の整備なども考慮し、今年度、健康普及員等の協力を得て、ウオーキングコースの見直しを実施します。毎月の歩こう会を初め、今後もウオーキングコースの普及に取り組んでいきます。また、ゆる体操の普及活動、介護予防のための運動の自主活動についても継続支援をし、一緒に楽しめる仲間づくりを進めていきます。

最後の4番目ですが、町の有料施設というと、パークゴルフ場がありますが、現在の料金でも多くの利用があることから、無料化することで、新たな利用者がふえていくとは考えにくいところがあります。

また、他のスポーツ関連有料施設については、団体利用を原則しているため、提案にはなじまないと考えております。

開成町の健康増進計画を策定する際に実施した住民の意識調査では、運動をしない理由として挙げているのは、青年期や、壮年期の方は時間がないと答える方が多く、高齢者は一緒に運動する仲間がいないと答える方が多い結果となっております。特に高齢者にとって、運動のきっかけは、仲間づくりが一番重要です。今後も身近な自治会館などで、地域での活動を軸にし、一緒に運動を楽しめる仲間づくりを進め、運動の充実に努めていきたいと考えております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

山田貴弘君。

○8番（山田貴弘）

生きがいくつりと社会参加の願いと具体的な施策については、ただいま町長答弁よりもありました。最初に生きがいを持って、快適な毎日の生活を送り、生涯を送っていくための生活習慣は、町長答弁でもありましたように、仕事、近所づき合い、趣味や娯楽の活動、ボランティア活動や、社会との交流が増すように、高齢者の社会参加を進めていくことが大変重要であるという答弁をもらいました。まさしくそのとおりであると思っているところでもあります。そのような答弁がある中で、ただいま国の状況はどのようになっているかという、国の予算、国家予算は90兆円ある中に、医療費、自己負担をあわせて見てみると、40兆円ともいわれる予算が医療費に消えていっているというのが、日本国家における現状ではないかと私は思っているところでもあります。

要するに町長答弁でも述べているように、高齢者の方が医療に頼るのではなく、表に出て、元気に暮らしていく。まさしく治療から予防の転換に施策を切りかえていかなければいけないのかなと思っているところでもあります。

そこで健康で長生きする施策の徹底で、医療費の削減をし、余った予算を子育て支援などに回すというような施策展開もあると思うんですけども、そこら辺の町の考え方ですね。要するにまだまだそこまではいっていない。医療に頼る部分にまだあるんだよという状況なのか、今後は、そういう病院に通う高齢者の方々、通うと言っちゃいけませんね。通院される方々は、表に出てもらって、元気にすこやかに頑張っていて、生活をしていってもらうという意気込みなのか、そこら辺、再度、確認をしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

保険健康課長。

○保険健康課長（田辺弘子）

高齢者対策というところで、平成18年に介護保険法が改正された時点で、介護予防ということに力点を置いて取り組んでいくという、国も含めて、あと町としても予防にシフトしながら、施策を展開していくというふうにとらえて、地域包括支援センターの活動であったりというところで、町直営でも事業を展開しているところでございます。

あと国が最近出した健康寿命の延伸というところで、次期の計画の中に、健康寿命をできるだけ延ばすようにというような方向性が出ております。直近のデータですと、平均寿命と健康寿命ということで、健康寿命が男性の方が70.42歳、女性の方が73.62歳ということで、介護が必要で、何年間介護が必要になるかということで、平均寿命から健康寿命を引くと、男性大体9年、女性だと12年、その期間がございます。その期間をできるだけ短くするというところで、町としても施策を考えていくというふうに思っております。

○議長（茅沼隆文）

山田貴弘君。

○8番（山田貴弘）

今、健康寿命について触れられました。確かにそうです。開成町については、この健康増進計画の中でも平均寿命については、男性が79.2、女性については87.7ということで、平成17年においては、全国の市区町村と比較すると、上位から10番目として、大変平均寿命が長いというデータがここでも出ています。

ただいま言われる中での健康寿命、神奈川県でいえば、男性が70.9歳ではないのかなと思うところで、女性については、74.36という年齢が出ているとは思いますが、ただいま課長のほうで述べられたのは、全国平均のことだとは思いますが、その中では平均寿命との差が大きければ大きいほど、健康面に支障を、要するに奪われてしまい、暮らす期間が長くなっているという部分だと思うので、この平均寿命と健康寿命というのは、大きな分析の中では大変重要ではないのかなというところで注視していかなければいけないのかなというふうには理解しているところです。

そこで健康寿命、厚生労働省のほうで発表されたということで、最近のことなんですけれども、そこについて、当然、健康が重要だと思うので、その町の認識はどのようにしているのか。先ほどの質問と重複するんですけれども、その再度確認、医療でいくのか、健康でいくのか、そこら辺を再度確認をお願いします。

○議長（茅沼隆文）

保険健康課長。

○保険健康課長（田辺弘子）

それは先ほども一応お話をさせていただいたように、これからの時代は予防というところで取り組んでいきたいというふうに考えています。

○議長（茅沼隆文）

山田貴弘君。

○8番（山田貴弘）

ただいま再度しつこく確認したということは、要するに健康を維持するために、どのような環境を町としてつくっていくかということが重要ではないのかなというところに、次にいくと思うので、自分が質問をした中での四つの質問の中では、前半は高齢者保健福祉計画、介護事業計画に対してふれてきましたが、その次の本題の部分、2、3、4となってくるとは思うんですけれども、ならば町長答弁の中では、表彰等をやっていくのは考えにくい、また、有料施設の無料等、難しいという答弁はもらっているところなんです、やはりそういう施設の中で、高齢者の方々が、こうやっていって、健康促進をしながら運動をしていく。その中で、何かしらのきっかけづくりというのですか。自分、毎日来て、一生懸命健康になっているよ、ではあなたも来なよという、そういう誘うような仕組み、やはりそういうものが今後は必要で、何でもかんでも自治会とか、そういうものに任せるんじゃなくて、そういうパークゴルフでも何でもいいんですけれども、そういうシステムが欲しいというところで、これは例えの例で表彰してみたらとか、パークゴルフ、健康管理の特典に、有料施設利用料の無料パスなどを発行し、これは例えば言っているの、

やはりそういう部分で、ささいなことでもいいんで、要は70、80になったときに、その人たちというのは、先のことを考えるじゃないですか。あの人たちは必要なんですよというような位置づけで、ささいなことでもいいから認めるということが大変重要だと思うので、そういう部分での切り口で、表彰とか、無料とか、ある意味、ご褒美ですね。そういうものを施策の中でやっていって、促進、または隣近所を連れて行く、そのような仕組みができないかということで提案をしていますので、自分が言っているものに限定するんじゃなくて、広い意味で、そういう考え方を今後、健康の部分とマッチングするような形でやっていってほしいという要望ですので、その点、答弁ありましたら、よろしくお願いします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

山田議員の言われるとおりだと思います。山田議員の具体的な提案がちょっと今あわないので、そういうふうな解答になってしまったと思うんですけども、パークゴルフは特に有効だと考えております。そういった中で、そういった意味では、いろいろな大会、新しく大会をまた開催してもらおう。今度、ミズノオープンを開催するとか、水辺に関しては、指定管理者ということで、スポーツパートナーズとお願ひしていますけれども、積極的にいろいろな意味で、どんどんパークゴルフ場に新しく人が来てもらえるような施策を今、いろいろな提案をして、町にもいただいております。そういった部分についてはやっていきたいと思います。

過去に上位者、今言われたように名前がなかなか年間を通してわからないので、過去はホールインワンにおいては、健康保険課のほうでバッチを出したとか、そういうふうな部分がありますので、できるだけいろいろな意味において、その人たちが積極的にかかわってもらえるようなほうにもってきて、とにかく健康でいてもらうということが一番大事だと思う。これから高齢者の高齢化率が上がるのはわかっていますけれども、そういう人たちがふえることが悪いんじゃなくて、健康で、長生きしてもらえば一番いいわけですから、そういう意味において、いろいろな健康増進策、山田議員の言われるように進めていきたいと思いますので、もちろんいろいろな提案をもっともっと山田議員からもいただきたいと思いますので、そういう意味で、アイデアを出していただきたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（茅沼隆文）

山田貴弘君。

○8番（山田貴弘）

町長答弁の中では、前向きな答弁がありましたので、ぜひとも、要は高齢者の方々に国民栄誉賞をあげろと言っているわけではないので、きっちりとしたデータがなくても、申告でも構わないと思うんですよ。そのところで一番大事なのは、認めるということが、要は生きているという存在を与えるというのが一番重要なので、我々としても、自分の今置かれている立場について、物事って比較しちゃう部分っ

であると思うんですよ。やはりだんだん年をとってくるとやはりこうやって小さい子どもじゃないですけども、そのような意識の中で、だんだん考える能力なんかも衰えてくるので、そういう部分というのは、生きているんだよ、頑張ってるね、健康にねというような部分でのご褒美という部分で、そんながっかりしたような表彰じゃなくてもいいんで、認めるということを念頭に置いて、ぜひともやっていってもらいたいということで、その問題は終わりにしたいと思います。

それでは、町におけるパークゴルフ場というのは、自分もいろいろいろいろな角度から見ていて、大変この開成町というのは、前向きに整備をし、去年も9ホールふやして、大変スポーツの場を設けているなということでありがたく思っているところです。

それでは、質問の中で触れている部分にいきたいんですけども、ゲートボール場ですね。ここら辺の部分というのは、町のほうからデータを出されているんですけども、施設整備そのものが、若干町民の意見を聞いていると、もうちょっと何とかしてくれよという声が入っていることが事実です。

しかし、パークゴルフとは違って、ゲートボールというのは、やはり運動をしている人たちの人口度というのは低い分、ちょっと整備がおくれているというのも認識しております。しかしながら、やはりパークゴルフを得意にする人もいれば、ゲートボールを得意にする人もいますので、町の施策として、ゲートボールはもうやらないよというのであれば、これは廃止の方向で、ちゃんと説得をしながらやっていけばいいと思うんですけども、やはりその部分が中途半端な時点にきていると思うんですよ。やはりゲートボール場の施設なんかを見ると、例えば、トイレが完備してあって、水道も手を洗う施設なんかも整備されているというところもあります。中には全くないところもあります。近所に行って、トイレを借りるというような環境に陥っているところもありますので、実際、そういうスポーツ、健康の意味でスポーツをやりにいっているのに、実際、そこへ行ったら、ばい菌が入っちゃって、病気になっちゃったとか、膀胱炎になっちゃったとか、そういうものがあってはやっぱりいけないんで、環境整備というのは、そういうところは、もうちょっと真剣にやってもらいたいという部分で、ゲートボールの話をしたんですが、ゲートボールの人口比率なんかもありますけれども、そこら辺の考え方ですね。ゲートボールの位置づけ、施設整備について、考え方をお伺いしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

福祉課長。

○福祉課長（遠藤伸一）

山田議員のご質問にお答えをいたします。資料等にも出しました。また、答弁の中でも、ゲートボールができるところが町内に今、7カ所あるというようなことでいっております。

それで町の考え方としましては、その7カ所の中でゲートボールを今後も進めていっていただきたいということがあります。また、この質問が出た際に、ま

た、老人クラブとも毎月1回会長会議がございますので、その場で人口なんかも、実はそこで聞いたんですけれども、また、その実態等も聞かせていただきました。その中ではなかなか老人クラブ単位では、少ないところではもちろんゼロもいたんですけれども、3人とか、5人とか、そういうところもあって、なかなか練習相手が逆にいないというようなことで、地域と交流をしてやっているというような状況がありましたので、そういう中で今後も進めて、ゲートボールを楽しんでいただきたいと思いますということで、特に今後の施設の整備は考えておりません。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

山田貴弘君。

○8番（山田貴弘）

ただいまの課長答弁の中の施設整備については考えていないという答弁がありました。自分は今、質問した中では、最低限の環境がないという部分でいっているの、例えば、グラウンド内を、要は凹凸がないように、常備整備しろとか、そういう難しいことを言っているんじゃないくて、最低限、ゲートボール場として七つですか。その施設を認知するのであれば、ちゃんとした、少なくともこれから夏になってくると、やはり太陽の光だとか、そういうものも配慮していかなくちゃいけないと思うので、やはりそういう部分で、スポーツをやっていて病気になっちゃいけないんで、やはりそういう部分での最低限の環境整備というのは、やっていくのか、やっていかないのかというところを明確に答弁のほう、よろしくお願いします。

○議長（茅沼隆文）

福祉課長。

○福祉課長（遠藤伸一）

お答えをいたします。山田議員の言うとおりで、トイレとか、手洗いの話ですね。そういうところにつきましても、ちょっとそこら辺の観点が少しなかったんで、老人クラブの会議等で連携をしながら、状況を把握しながら、要望にこたえていきたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

山田貴弘君。

○8番（山田貴弘）

ただいま老人クラブ等に投げかけながらも、整備等、細かなところを見ていってもらいたいと思います。

それでは時間もないので、余り内容について深く投げかけはしませんけれども、やはり開成町の実態としては、体の活動とか、運動について、いろいろな歩こう会とか、骨の健康づくりいきいき体操等を推進していくというところで、参加者をふやすために、ご努力をしているところだと思います。なかなかこれは数字を見ると、ちょっと厳しいなという、伸び率が低いなという部分がありますので、ぜひ、そこは一つのものにこだわるのではなくて、何かとセットでやるという、例えば、

バグゴルフをやった後にやるとか、ゲートボールをやった後にやるとか、促進されている、そういう運動なんかと掛け合わせることによって効果とか、そんなのも出てくると思うんですよ。

例えば、歩こう会にしても、歩きながらパークゴルフ場まで行くとか、そのようなものも、ちょっと切り口を変えた中で参加者をふやしていけばいいのかなというふうに感じているところであります。

その部分は今後の施策の中で、いろいろな切り口でやっていってもらいたいということで、ここではお願いにはなってしまうけれども、やはり高齢者の方々の健康維持、管理は痛切に思うところではありますので、ぜひ、その点は注視していただきたいと思います。

それからあと、健康増進計画の中で、体の活動、運動として、現状と課題ということで、外出ヒントについて触れています。その点については、これは読み上げてもみましようか。青年期以上の外出ヒントについて見ると、毎日では、青年期では52.6%、壮年期では45.3%、高齢者で33.3%になっています。一方、週に1回以下では、という説明に対しては、壮年と高齢者で10%以上となっており、ライフステージが上がるにつれて、外出頻度が減少する傾向になっていますということが、ここでも現状と課題と出ていますので、ぜひ、こういうものを受けとめて、週に1回以下というんじゃないくて、やはり頻繁に出すような、地域に溶け込んだ、行政側も地域に出て、やはり引っ張り出すような考え方をもって、健康で、すこやかな高齢者の方々をふやしていただきたいと思います。その結果が、医療費の削減になると思いますので、よろしくお願いします。

以上について、質問を終わります。ありがとうございました。